



1 学校教育目標

生命・人権尊重の精神を基調とし、自ら学び、すすんで行動し、他と共に心豊かで平和な社会の形成を目指す、心身ともに健康な児童の育成を期して、次の目標を設定しました。

元気で生き生きとした心豊かな子ども

・考えよう ・やりぬこう ・助け合おう ・きたえよう

2 目指す学校像

目指す学校像を以下のように設定し、具体的な教育活動の達成目標と具体的方策を策定します。

児童に 保護者に 地域に 教職員に

未来に向かい創造を生み出す学校

教員の授業力、指導力を発展させる、学校の組織力の向上

児童が充実感をもち、創造力を生み出す学校

保護者・地域と連携し、適切な支援を提供できる教育

3 今年度の学校経営目標



(1) 学力の向上

- ・児童の実態に基づいて指導方法を工夫改善した授業の展開、個に応じた指導や補充学習の実施
- ・児童が主体的に学習に取り組み、学びを豊かに表現するための思考力（自分の考えの根拠を明確にできる力）・表現力（自分の考えを説明できる力）の育成
- ・一人1台端末の効果的活用と既存の資料活用力や選択力の育成

○中期的経営目標

小中9年間の学びの系統性を踏まえ、基礎・基本の学力と知識・技能の定着を図る授業の改善を目指します。

- ・東京ベーシック・ドリルの活用、一人1台端末の併用（デジタルドリルの効果的活用）
- ・学校図書館の活用 → 月曜日から金曜日、指導員が常駐
- ・表現力の向上を図るための言語力向上を目指した指導の工夫、改善



○今年度の目標

◎家庭学習習慣の向上及び定着（目標時間に届く児童を90%以上）

- ・中野区学力調査のレベルを区が設定した達成率を上回るための授業改善（90%以上）
- ・家庭学習と学校教育を連動させ、学習内容の定着

(2) 自他共に、大切にできるこころの育成



- ・人権尊重の精神を基盤とし、全教育活動を通して生命や人権等を尊重する態度や規範意識の育成
- ・自尊感情や自己肯定感、自己有用感の向上
- ・同学年や異学年（たてわり班）、地域の人々との交流活動や外部人材を活用した教育活動の充実
- ・道徳性や豊かな人間性、人間関係形成力の育成
- ・学校いじめ防止基本方針に則り、スクールカウンセラー（都と区の2名体制）等との連携を密にしながら全教職員で年間を通して継続的にいじめの未然防止

○中期的経営目標

自分の大切さとともに他の人の大切さを認め、思いやりをもって接することのできる児童を育成（相手に思いやりをもつことができる児童、異学年の児童との交流、地域への思いを大切に出来る児童など）

○今年度の目標

- ・特別の教科 道徳（こころの教育）の指導の充実を図る。（道徳の授業の指導力向上と評価の実施など）
- ◎いじめの未然防止を図り、いじめの種になりうる状況の適切な把握と情報収集や対応を全職員で実施

(3) 健やかなからだづくり



- ・体育朝会や外遊び、体力向上の活動を充実させ、体づくり運動を積極的に取り組み、日頃の体育科の授業の見直し
- ・日常生活の改善に努め、食育や防災教育の推進、交通・安全指導の徹底により必要な知識等を習得させ健康で活力ある生活を営む実践力育成
- ・特別支援教育コーディネーター（守矢、深井、岡野、平泉）との連携を充実させ校内委員会の活動を定期的実施
- ・スクールカウンセラー（週2日に拡幅）心の教室相談員の情報を全教職員で共有し、児童の状況を適時的確に把握し、連携出来る体制を構築



○中期的経営目標

運動に親しむとともに健康・安全（防災）に関する必要な知識等を習得し、健康で活力ある生活を営む力の定着

○今年度の目標

- ・日頃から運動や健康に興味をもつ資質を育成し、基本的運動能力の向上（運動が好き、体を動かすことが好きな児童、けがに気を付けて行動できる児童の育成など）
- ・日々、安全、安心に生活し、様々な状況を判断し落ち着いて行動できる児童の育成（避難訓練、交通安全など安全意識をもち実践できる児童、食の大切さを考え給食を食べるようにしている児童など）
- ・異学年交流を充実させ、コミュニケーションスキルの向上を目指し、様々な集団で活動できる児童の育成
- （学活におけるソーシャルスキルゲームの活用、いちょう教室との連携、特別支援コーディネーターとの連携、SSWの活用など）

(4) ライフ・ワーク・バランスを考えた働き方改革



・教職員が心身の健康保持を図り、仕事と家庭（私生活）を両立し、充実して働き続けられる「ライフ・ワーク・バランス」のとれた働き方の実現

◎教育活動の内容について、意義と効果を検証した内容の見直しを図るとともに、限られた時間を有効活用するための校務分掌の内容を見直し、クリエイティブなアイデアを構築し、効率的かつ効果的に実践する。

ただ効率的、時短にするのではなく、児童が主体的に取り組めるような意味のある変革やスクラップアンドビルドを実践することを大切にする。

○中期的経営目標

効率的な勤務を心掛け、心と体の健康に気を付けて勤務できる教職員となる。

○今年度の目標

・週休日はできるだけ出勤しないようにし、やむを得ない場合はどちらか一日とする。(100%)

4 保幼小中連携教育

(北中野中学校・上鷲宮小学校・武蔵台小学校・かみさぎ幼稚園)

保育園・幼稚園から小学校、小学校から中学校への円滑な接続を図り、連携を生かして生きる力（豊かな心・学力・体力）を更に伸ばし育てていくために、近隣の保育園・幼稚園や小中連携3校で教科指導や生活指導等において発達段階や学びの連続性を踏まえた意図的・計画的な指導の工夫を行い、一貫性のある継続的な指導を行う。

◎北中野中学校を中心とする、中野区版コミュニティ・スクール体制の構築

中野区コミュニティ・スクールとは

学校支援ボランティア制度を発展させ、学校支援体制を組織化した「地域学校共同本部」と地域が主体的に学校教育のあり方を考える「地域学校運営協議会」の二つを同時に設置する学校
※個々の学校の評価など、これまでの学校評議委員会の設置などは見直しを行う。

目指す子ども（児童・生徒）像（案）

- ・安心して進学し、もてる力を十分発揮できる子ども
- ・安心して活動し、もてる力を更に伸ばしていく子ども
- ・地域を愛し地域に生きる子ども



目指す小中連携テーマ（仮）

「北中ファミリー」

～上の子は下の子を弟や妹のように思い、下の子は上の子に憧れを抱く～

連携の充実

- (1)保幼小中連携協議会での各教科カリキュラムの連携
- (2)中学校から小学校や幼稚園への派遣活動
- (3)小学校が中学校に活動や授業を見に行く（オープンキャンパス）など

・ 3 S Sスマイル・Sスピード・Sセイフティ

